

# トランスフォーム™ フロアブル

Isoclast™ active

## 園芸用殺虫剤

カイガラムシ類に優れた効果を発揮する、  
唯一のスルホキシミン系殺虫剤。

- ・歩行性幼虫発生初期より早い散布でも効果が確認されています。
- ・雨よけ被覆前にしっかり散布できます。
- ・効果がより安定する1,000倍散布をおすすめします。

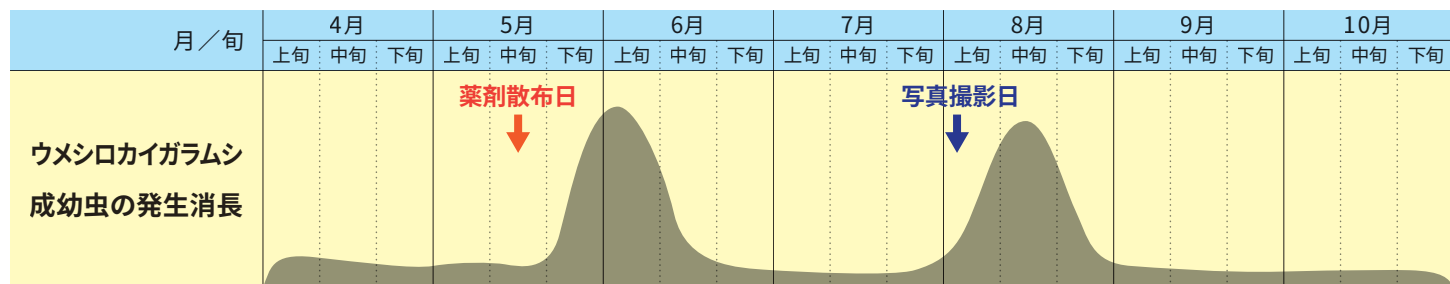
収穫  
3日前まで  
使えるように  
なりました!



トランスフォームの特長を活かし、適切に散布することで、  
ウメシロカイガラムシの密度を抑えられます。

### ■山形県内におけるウメシロカイガラムシの発生活消長

図提供: 山形県植物防疫協会



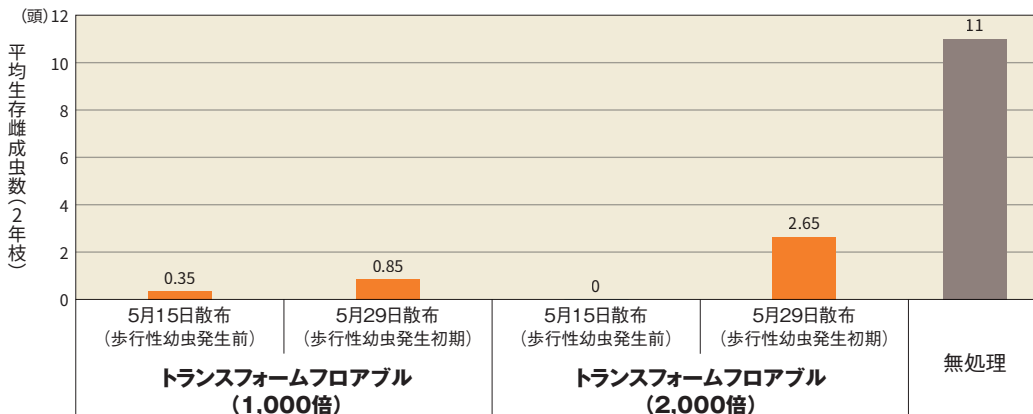
雨よけ被覆前にしっかり散布!  
カイガラムシ類による樹勢低下を防ぎ、  
安定した収穫を!

薬剤散布日: 2021年5月15日 (歩行性幼虫発生2週間前)

写真撮影日: 2021年8月3日

(写真提供: 山形県農業総合研究センター 園芸農業研究所)

## ■トランスフォームフロアブルのウメシロカイガラムシ(第1世代幼虫)に対する防除効果



### 【試験概要】

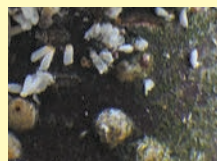
試験場所: 山形県農業研究センター 園芸農業研究所  
 供試樹: 紅さやか/アオバザクラ、佐藤錦/アオバザクラ 各10年生樹、ポット栽培  
 区制: 1区1樹 2連制  
 薬剤処理日: 2021年5月15日(歩行性幼虫発生前) 2021年5月29日(歩行性幼虫発生初期)  
 薬剤散布量: 3.0ℓ/樹  
 調査方法: 8月3日に樹当たり3本の調査枝を選定し、2年枝に寄生する雌成虫の介殻をはがし、卵の形態から生存虫数を調査。



薬剤効果が出た卵のう 無処理の卵のう

### 【注意点】

薬剤散布後に雄菌殻がみられる場合がありますが効果に問題はありません。なお、カイガラムシ類は薬剤抵抗性を回避するために他系統の薬剤との体系防除を行ってください。



## ■トランスフォームフロアブルの適用害虫と使用方法(落葉果樹のみ抜粋)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	10アール当り使用液量	使用時期	本剤およびスルホキサフロルを含む農業の総使用回数	使用方法
おうとう	カイガラムシ類、コアオカスミカメ	1,000~2,000	200~700ℓ	収穫3日前まで	3回以内	散布
りんご	アブラムシ類	2,000~4,000		収穫前日まで		
	リンゴワタムシ、カイガラムシ類、コアオカスミカメ	1,000~2,000				
なし	アブラムシ類	2,000~4,000		収穫7日前まで		
	カイガラムシ類	1,000~2,000				
もも	アブラムシ類	2,000		収穫3日前まで		
	カイガラムシ類	1,000~2,000				
ネクタリン、すもも、うめ	アブラムシ類	2,000		収穫前日まで		
ぶどう	カイガラムシ類	1,000~2,000		収穫前日まで		
かき				収穫3日前まで		
キウイフルーツ			収穫3日前まで			

※その他、かんきつ、ばれいしょ、ごぼう、やまのいも、いちご、メロン、すいか、キャベツ、だいこん、レタス、非結球レタス、非結球あぶらな科葉菜類、ブロッコリー、はくさい、ほうれんそう、しそ、きゅうり、なす、ピーマン、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、さく、食用ぎく、つつじ類にも適用があります。

## ■使用上の注意事項

- 使用前に容器をよく振ってから使用してください。
- 本剤の所要量を所定量の水にうすめ、よくかき混ぜてから散布してください。
- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- ぶどうに使用する場合、果実肥大期(大豆大)より後の散布においては、果粉の溶脱を生じることがあるので十分注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
  - ・ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
  - ・受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。
  - ・関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供

し、ミツバチの危害防止に努めてください。

- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受ける事をおすすめします。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に被害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 直射日光を避け、食品と区別してなるべく低温な場所に密栓して保管してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水等は河川等に流さないでください。また、空容器等は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。

●使用前には、ラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

## イソクラスト普及会

日産化学株式会社  
 日本農薬株式会社  
 北興化学工業株式会社  
 コルテバ・ジャパン株式会社※  
 ※事務局:東京都千代田区永田町2丁目11番1号

取扱

本資料は2022年11月現在の知見に基づき、作成されています。